

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和3年(2021)7月10日

No. 163

発行 高津啓洋

ラパッチョの花が咲く



レダに咲くラパッチョは訪れる人々の心を和ませてくれます。日本人移住者が南米桜として大切にしてきたものです。レダも沢山のラパッチョが咲き誇り春の訪れを告げてくれます。

今年はコロナ禍のために、今までとは様変わりしたパラグアイ国です。人口700万人に対してコロナ感染者は首都アスンシオンを中心に拡大し26万人です。亡くならない方も少なくありません。

一方レダは、感染者も現れていませんが、マスク着用をはじめ手指の消毒もこまめに行われコロナ対策に余念がありません。

12月の夏に実るマンゴーの花も沢山咲き始めました。

(伊達記)

ラパッチョの花

奉仕隊の受け入れ準備進む

今年も、青年奉仕隊が7月10日にアスンシオンに到着します。一社)南北米福地開発協会と共催で奉仕隊を日本から送り、現地で受け入れて、インディヘナ地域への環境整備や子供公園づくりや、植樹活動を行う予定です。

レダでは植樹のための準備が着々と進められています。大工の棟梁である、水落勝さんが実際よくたくさんのネーム板を作っています。

また、地元出身の従業員により、



植樹した人のネーム板づくり

植樹のための穴掘りがすすめられています。今年の奉仕地はレダから50キロと近いマリアアウシラドーラ村への奉仕活動となります。



植樹の準備

訃報

齋藤俊樹さん死去

当会理事を長く勤めた、齋藤俊樹さんが6月25日敗血症のため逝去されました。享年78歳です。

レダの植樹活動に多くの支援を行い、レダにも数回訪問しました。また、宮脇昭先生(当会名誉顧問)とも、大槌町の植樹会等にも参加し積極的に頑張ってきました。ご冥福をお祈りいたします。